

令和5年度第1回 立川市ごみ市民委員会 議事要旨

件名	令和5年度第1回 立川市ごみ市民委員会		
日時	令和5年6月28日(木) 14:00～15:30	場所	立川市役所 302 会議室
出席者	委員:ごみ市民委員会委員(10名) 事務局:ごみ減量化担当部長 ごみ対策課長、計画推進係長、計画推進係(2名) クリーンセンター長、管理係長、主査(施設整備等) 旧清掃工場担当課長		
資料	会議次第、資料1～資料3		

会議概要

1 開会

2 委員長あいさつ

- ・原委員長より開会のあいさつがあった。

3 ごみ減量化担当部長あいさつ

4 議題

○一般廃棄物処理計画の進捗状況の確認

- ・ごみ対策課長から、資料1「立川市一般廃棄物処理基本計画の取り組み状況についての詳細説明が行われ、家庭ごみ減量の推進や生ごみ処理の取り組み状況などが報告された。

続いて、資料2、立川市一般廃棄物処理基本計画目標値一覧について説明が行われた。

① 生ごみ分別資源化事業について

- ・基本計画と取り組み状況についての報告の中で、生ごみ分別資源化事業における、大山団地自治会の取り組みに関する情報が共有された。
- ・生ごみ分別資源化事業では、回収ボックスの設置により、団地内の住民に生ごみの分別協力を依頼している。1,400世帯中754世帯が協力しており、回収ボックスに生ごみを投入し、市の業者が週2回収している。回収された生ごみはリサイクル施設で資源化され、剪定枝などと混合されて堆肥の材料となる。

- ・協力世帯数の差異について疑問が呈された。ごみ対策課長より、高齢者はごみ出しが負担になってきているため、若い人は忙しさのため、協力が難しい場合があると回答した。
- ・生ごみの厳しい選別条件や施設の要件も、協力のハードルを高めていることが委員より指摘された。
- ・この課題に対して、市は大山団地自治会だけでなく、周辺の先進市の取り組みを視察し、発展的な対策を検討しているが、高齢者の増加や選別の困難さなど、課題は依然として大きいことが明らかになった。
- ・ごみ対策課長より、分別の基準が厳しいが、業者も回収後の手選別に力を入れていることを説明。ただし、市民の協力が不可欠であることあるとの認識が示された。

② 家庭・事業者における状況

- ・家庭や事業者におけるごみ削減とリサイクルの取り組みに焦点を当てた。
- ・家庭においては、細かな取り組みや課題が多く、事業者においては、認定証を活用したごみ削減の取り組みが有効であるとの意見があった。また、地域や個別の収集方法についても検討が必要であるとの指摘があった。
- ・ごみの削減と分別の重要性、リサイクルよりもリダクション（減らすこと）が優先されるべきであるとの意見が出された。市民の意識の向上と事業者の協力の必要性についても話し合われた。

③ ごみ処理に関する課題や提案について、委員より意見が出された、

- ・高齢者や体力のない人がごみ処理に困っている現状を指摘、市役所や業者との連携で支援する仕組みが提案された。
- ・訪問看護や市民とのコミュニケーションを通じて情報収集する方法の重要性を指摘し、柔軟なアプローチが求められると述べた。
- ・高齢者や困っている人のための「ちょこっとお助け隊」や、ごみ減量のための乾燥方法の宣伝について提案があった。
- ・韓国のようなポイント制のごみ回収や、信頼できる業者との連携による安心感の重要性を述べ、新たな取り組みについて意見が示された。
- ・立川市や農協の取り組みを例に挙げながら、市の上手なコミットと信頼関係の重要性を強調した。
- ・委員会は市に対して、ごみ処理に関する新たな取り組みや支援策の検討を要望した。

④ 事業系ごみについて

- ・ごみ対策課長より、事業系ごみの増加が立川市の課題であることを認識していると回答。
 - ・事業系ごみの具体的な例について、大型店や一般事業所で発生する飲食関連のごみが多いと説明。

- ・事業系ごみの処理費用の負担について質問があり、ごみ対策課長より処理費用は事業者負担にしていると回答。
- ・事業者の責任での処理や料金設定の見直しについて提案があった。
- ・廃棄物行政の基本は応分の負担であると指摘し、現状を捉えるという観点で市の意見を求めた。→ごみ減量化担当部長より、受益者負担についての議論が難しい状況にあり、負担を均等にするか特定の受益者に負担を求めるかは検討すると回答。負担に関する議論は停滞しており、物価高騰や生活の苦しさを考慮して、負担増加は難しいという状況があると述べた。
- ・廃棄物行政が環境行政に組み込まれた理由に疑問が呈され、環境問題に関連する全ての問題が環境に帰結されることについて懸念が表明された。また、環境行政の伝統的なルールに基づき、受益者負担や企業責任の重要性を強調した。

○令和6年度以降のごみ市民委員会について

指摘事項なし

○各委員よりあいさつ

- ・新たなリサイクル品目の検討について意見を述べ、鉄やアルミなどの資源に重点を置くべきだと提案があった。また、プラスチックのリサイクルや分別についても改善が必要であるとの指摘があった。
- ・日本科学未来館での経験を通じて、プラスチック廃棄物の処理に関する企業の取り組みや課題について報告。廃棄物の発生源を減らすことの重要性と、リサイクルプロセスにおけるコストや劣化の問題について言及した。
- ・クリーンセンターの広場利用で、フリーマーケットのような広場を作ることや、環境負荷の軽減を考えたごみの再利用について意見があった。
- ・温暖化防止やごみの再利用に関して意見があり、子供たちにごみの活用を体験させる場を作ることや、企業に分別やごみの有効活用を呼びかけることが提案された。
- ・ごみ出しサポートの重要性、分別のサポートが未来にとって良い方向に進むことが述べられた。
- ・経済学の視点から、ごみ処理と温暖化防止の重要性が述べられた。
- ・駅周辺の新規テナントビルやマンションの増加に伴い、ごみ処理に関してのアナウンスを市が積極的に行うよう、要望があった。
- ・次期のごみ市民委員会の委員選定にて、大学生の委員参加を希望する旨、述べられた。
- ・プラスチックに関する学習会を行った所、市民の関心を呼び、発生抑制の重要性が浮き彫りになった。PR活動を通じて、リサイクルよりも発生抑制に重点を置く必要があるとの意見が出された。
 - ・年齢が上がると、食べきれなかった食べ物の残り物などが出る傾向がある。若い世代は物を迷わずにどんどん破棄する。それぞれごみの問題を引き起こす一因とな

っている。自治会の登録数が減少しているが、自治会などでの意識改革が必要との意見が出された。

- ・委員長からの感謝の意。市民委員会の皆さんの的確な意見と実践例に感謝を表す。立川市の環境意識が進展し、市の取り組みに対する支持を感じる。

- ・ごみ対策課長より、令和 3 年度の大山自治会のごみの減量実績を紹介。また、鉄やアルミの分別回収を行っており、アルミの高騰もあって、高い売却益が上がっていること、ペットボトルのリサイクルにおいて立川市が高い評価を受けたことを報告。

5 その他確認事項

- ・立川市審議会等会議公開規則に従い当委員会を公開することを報告した。
- ・委員会資料、会議録（議事要旨）は基本的にホームページ等で公開することを確認した。ただし、個人情報については非公開とすることを確認した。

以上